

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」 平成26年度第2回推進会議の概要について

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」の平成26年度第2回推進会議を、平成27年2月6日（金）に開催しました。

今回の推進会議には、7名の委員のうち3名の方にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学人文部教授の朝日幸代氏にご出席をいただきました。

平成26年度第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

〈委員〉

田上 至（特定非営利活動法人ふるさと企画舎 理事長）

※田上委員はご欠席

野口 あゆみ（特定非営利活動法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 事務局長）

李 相海（鳥羽シーサイドホテル国際担当）

※李委員はご欠席

桂 三輝（三重県観光キャンペーン PR 隊長、2代目よしもと三重県住みます芸人）

※桂委員はご欠席

岡田 英美（近畿日本鉄道株式会社 伊勢志摩事業推進部 課長）

清水 清嗣（鳥羽商工会議所 専務理事）

※清水委員はご欠席

稲垣 八尺（伊賀上野観光協会 専務理事）

〈ファシリテーター〉

朝日 幸代（国立大学法人三重大学 人文学部 教授）

〈推進会議の進行概要〉

会議の進行概要は以下のとおり

開会 13:30

課題抽出と意見交換

次の2つのテーマに関して、委員から現場の声を伺うとともに、短期・中期・長期の視点から取り組む内容について意見交換

○三重県観光の現状について

○次期三重県観光振興基本計画の策定に向けて

閉会 16:00



〈課題抽出及び意見交換〉

〔○：委員からの主な意見、▶：事務局の応答〕

【三重県観光の現状について】

～クレジットカード、両替について～

- 外国人観光客はカードでの購入が多い。
- 低額品等の購入のために現金も必要だが、特に週末など両替場所が少ないため、機会損失につながる可能性があり残念だ。
- ▶県から免税店等に説明する機会があれば働きかける。

～観光キャンペーンについて～

- 観光交流会に関しては、メディアはタイムリーな情報がないと興味を示さない。また、三重の情報に詳しいわけではない。

～バリアフリー観光について～

- 現在、約 130 の観光施設、約 100 の宿泊施設について、施設、トイレなどを紹介するガイドブックを作成している。近鉄などの交通機関も入れ、使いやすいように、点ではなく線で紹介する。
- モデルコースは紹介せず、バリアフリーツアーセンターに連絡をもらい、ニーズを聞いたうえで旅のアドバイスやコーディネートをして対応したい。

～インバウンド誘客について～

- Wi-Fi は重要であるため、例えば座って使えるよう、利用環境を良くすることも必要。それによって「たまり場」となれば、着地型の日帰りツアーのチラシ等を設置するなどして活用できる。
- 自分のところでは Wi-Fi 設備を 3 か所に増やした。案内パンフは英語でのみ提供しているが、他言語についてもウェブ等にアップしておいて Wi-Fi でアクセスできるようにするなど、案内方法について思案している。
- 国内でさえ伊勢や鈴鹿の知名度も弱い中、どうブランディングしていくかが大きな課題で、市レベルでも検討している。
- ブランディングにはストーリーが必要である。他方で、外国人のツボは日本人と異なる場合があり、さらに国籍によっても異なる場合がある。
- 口コミ、ネットでの発信力は大きい。交通の便が悪くても関係ない（例：和歌山県が行うブロガーツアー、和歌山電鐵のたま駅長など）。



【次期三重県観光振興基本計画の策定に向けて】

～目標値について～

- 目標値が高すぎないか。満足度は緩やかに上げていくのが妥当で、入込客数を増やすのは現実的でないため、目標値を下げてはどうか。
- H5、H25 の遷宮から落ち込んだ「変化率」を数値に用いてはどうか。また、海外自治体との連携取組もこれまでのように伸ばせるだろうか。
- 入込客数が少ない時に来てもらい、繁閑期の波を抑えるために、例えば伊勢志摩ならバリアフリーを、伊賀なら忍者で誘客するというのいいだろう。
- 入込客数という数よりも、消費額や宿泊数など、周りへの付加を高めていくべきではないか。

～観光事業者（担い手）について～

- 人口減少、高齢化による後継者問題など、観光事業を維持するために、供給サイドの事情を踏まえたフォローが必要だ。
- 地元利用の減少などにより老舗であっても飲食店や土産物店が廃業し、観光客が消費する場が減ってきている。供給者側に外部の人材を入れていかないと難しい。なお、忍者学校を作って育成する予定だ。

～交通問題について～

- 伊賀の場合、観光客の8割が車利用者で、公共交通機関は1割。愛知や大阪などからのリピーターが多い。車がないと周遊できないため、首都圏など遠方からの来客が少ない。
- インバウンドでは、京都から伊賀に入るルートをつくれればFITが増える。
- 二次交通が鍵となる。コミュニティバスや100円バスなどで利便性を高める他、乗り継ぎが円滑に行くように考える必要がある。京都には電車・バスの時刻表を連動させた乗り物案内があり、県外客でも実際に使いこなせるようにしている。車離れしている国内の若年層にはこうしたものをウェブにアップし、またインバウンドにはその外国語版があると効果的ではないか。

～五輪、国体について～

- 志摩市では、マラソン、ウォーキング、サイクリングなどの取組をしている。合宿受入については、グラウンドが十分でないため難しい。また、宿泊施設との連携も必要。基本的に、合宿と観光は切り離して考えるべき（中高生は×、大学生は△）。
- 国体やインターハイによる入込客数は、把握しておく必要がある。
- ▶調査する。
- パラリンピックではセーリングが種目からなくなった。国体では、伊勢湾を生かしたセイラビリティ（障がい者のセーリング支援）など、三重県ならではの競技を行ってほしい。
- 伊賀市長が国体で手裏剣打ちをして欲しいと提案したが、オリンピックの開会式では、忍者パフォーマンスがあるとよい。

～計画の項目について～

- 項目については、中項目、小項目を整理して、具体的な戦略を目立たせるなどメリハ

リをつけて特徴をだしてはどうか。例えば、バリアフリーを中項目にする、県が推進する「食」（生産から販売までの6次産業）を入れるなど。

- バリアフリーはボトムアップであり、ゆっくり来訪してもらえる仕組み。観光産業の高付加価値化に入れてほしい。

次回の開催予定

今年度の会議は今回が最終です。次回は来年度の開催となります。

今回の会議でいただいた提案は、今後の取組の参考とさせていただきます。